

## 対面取引とネット取引

# 豊富な情報・低コストがメリット

商品先物取引を始めるには商品先物会社(正式には「商品取引員」という)に取引口座を開設しなければなりません。株取引なら証券会社に、FX(外国為替証拠金取引)ならFX会社に口座を開設するのと同じ理屈ですが、最近は証券会社で商品先物やFX取引を扱うケースも増えています。その場合でも、取引口座はそれぞれ取引の種別ごとに開設する必要があります。

取引口座はだれでも自由に持てるわけではありません。商品先物では、取引に伴う種々のリスクや自己責任の原則を理解していることを大前提とし、例えば未成年は開設そのものができませんし、会社によって基準は異なりますが、一定以上の収入が条件とされている場合もあります。

### 専属コーチがアドバイス

取引口座の開設時には自分の取引スタイルを決める必要があります。先物会社の社員のアドバイスを受けながら取引をする対面取引か、すべての判断は自分でして、注文だけをパソコンや携帯電話から送信するインターネット取引のいずれかを選びます。

初心者には対面取引がお薦めです。この先、相場が上がるのか下がるのかを予想するには、自分が取引する商品の需要と供給の関係や、過去の値動き、為替の動向などの情報収集と的確な分析が不可欠です。

多くの場合、先物会社は無料のセミナーや勉強会を開催して投資家の手伝いをしてくれます。しかし自分専属のトレーナーがほしい、自分の取引について、口座の状況などを勘案しながらタイムリーなアドバイスを受けたいと考えるなら、対面取引を選択すべきでしょう。

対面取引は、いわば専属のコーチを雇うのですから、そのコストが取引手数料に反映されます。金額は商品によっても

会社によっても異なりますが、一般的には次に紹介するネット取引の10倍程度、1枚あたり(往復、以下同)では数千円以上で、2万円を超える場合もあります。

### 過大なリスク回避

アドバイスを受けながら取引をして、勘どころがつかめてきたらネット取引に移行することもできます。最大のメリットは手数料の安さで、商品にかかわらず1枚あたり400円から1000円程度。いま流行のミニ取引ならば200円に満たない手数料で取引できる会社もあります。

1日のうちで取引を終了するデイトレードでは、上記の金額をさらに半額に設定しているのが普通です。

## 新・商品先物入門

⑬

日本商品先物振興協会

小島 栄一

金標準取引では、最小の1円の値動きを決済すると1000円に相当します。このとき手数料が400円で相場が予想の方向に動けば、それが最小の1円でも600円の利益が確保できます。相場が予想に反した場合には、手数料を大きな負担と感じないで早めに損切りができるため、結果として過大なリスクを取らなくて済むのです。

ネット取引では、先物会社は安さと同時に投資家への情報サービスの充実を競い合っています。国内外の価格情報はもちろん、日に数度に及ぶ市況分析の更新、各種経済指標や気象データ、さらには時間軸を変えて表示できるリアルタイム・チャートの描画機能などはその一部です。ただし対面取引とは違い、投資家はそうした情報を自分一人で読み、消化し、売買を判断しなければなりません。

もちろん前提はインターネットへの接続環境の確保ですが、パソコンがなくても携帯電話からの取引も可能です。

### ネット取引を提供している商品先物会社一覧 (7月1日現在)

アイディーオー証券	コムテックス
インヴァスト証券	セントラル商事
エース交易	大起産業
エイチ・エス・フューチャーズ	ドットコモディティ
SBIフューチャーズ※	ニューエッジ・ジャパン証券
岡地	岡安商事
岡藤商事	フジミ
オムニコ	フジフューチャーズ
オリオン交易	北辰物産
カネツ商事	三菱商事フューチャーズ証券
協栄物産	モルガン・スタンレー証券
小林洋行	

詳細は、日本商品先物振興協会のページ([http://www.jcfia.gr.jp/cgi-bin/list\\_search\\_online.cgi](http://www.jcfia.gr.jp/cgi-bin/list_search_online.cgi))で  
 ※SBIフューチャーズは7月末で商品取引受託業務を廃止予定、現在注文を受けつけていない